

# 平成 25 年度 大野北地区住民MM実施結果

## 目 次

|   |    |
|---|----|
| 1. 事前アンケート結果 . . . . .                  | 1  |
| 1-1 配布・回収状況 . . . . .                   | 1  |
| 1-2 世帯構成・個人属性 . . . . .                 | 2  |
| 1-3 淵野辺駅・矢部駅の利用状況 . . . . .             | 8  |
| 1-4 大野北地区コミュニティバスについて . . . . .         | 11 |
| 1-5 動機付け冊子内容の認知度・「クルマ」についての意識 . . . . . | 15 |
| 1-6 よりよい地域の交通をめざして（自由意見） . . . . .      | 19 |
| 2. お試し乗車券の利用状況 . . . . .                | 20 |
| 2-1 利用状況 . . . . .                      | 20 |
| 2-2 利用特性 . . . . .                      | 22 |

# 1. 事前アンケート結果

## 1-1 配布・回収状況

アンケート調査の配布・回収状況を以下に示す。

コミュニティバス沿線地域である、上矢部1～5丁目、淵野辺本町1丁目、淵野辺2丁目の7地区4,611世帯に配布をし、回収数1,024世帯、回収率22.2%となっている。

回収数1,024世帯での回答者数は2,568人となり、1世帯当たり平均回答者2.5人/世帯となっている。

表 アンケート配布数

| 地区       | 世帯数   |
|----------|-------|
| 上矢部1丁目   | 536   |
| 上矢部2丁目   | 426   |
| 上矢部3丁目   | 297   |
| 上矢部4丁目   | 466   |
| 上矢部5丁目   | 506   |
| 淵野辺本町1丁目 | 789   |
| 淵野辺2丁目   | 1,591 |
| 計        | 4,611 |

表 アンケート回収状況

| 地区    | 世帯数(世帯) |       |       | 回答者数<br>(人) | 1世帯当たり平均回答者数<br>(人/世帯) |
|-------|---------|-------|-------|-------------|------------------------|
|       | 配布数     | 回収数   | 回収率   |             |                        |
| 大野北地区 | 4,611   | 1,024 | 22.2% | 2,568       | 2.5                    |

## 1-2 世帯構成・個人属性

### (1) 回答者構成

- ・回答者数の構成は、1世帯当たり「2人」が最も多く、平均回答者数2.5人/世帯となっている。

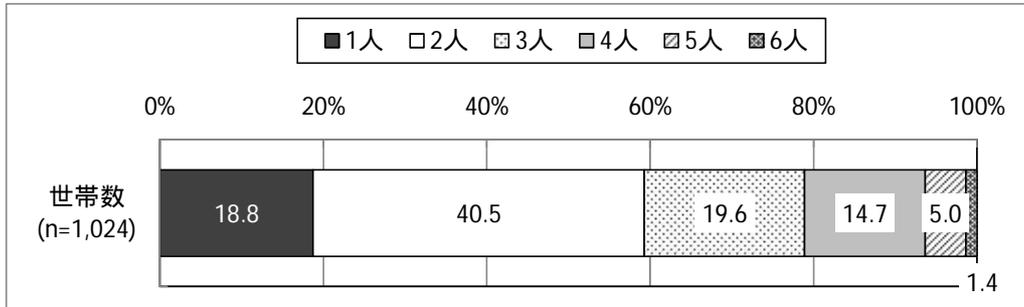


図 回答世帯の構成人員

### (2) 性別構成比

- ・回答者の性別は、「男性」50.1%、「女性」49.2%と若干男性が多くなっている。

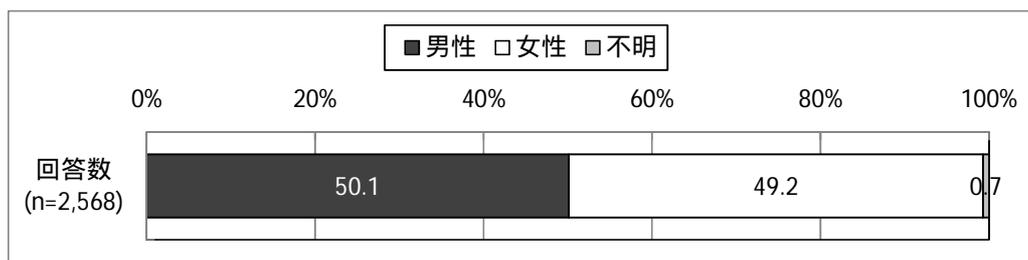


図 回答者の性別

### (3) 年齢階層構成比

- ・回答者の年齢階層は、「60歳代」の20.8%が最も多く、次いで「70歳代」の14.7%、「30歳代」の13.7%となっている。

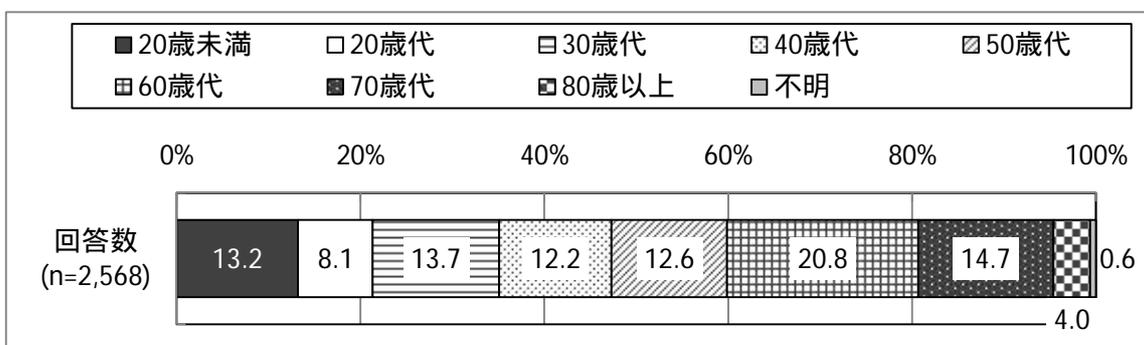


図 回答者の年齢階層

#### (4) 職業構成比

- ・回答者の職業は「会社員・公務員」の29.8%が最も多く、次いで「無職」23.7%となっている。

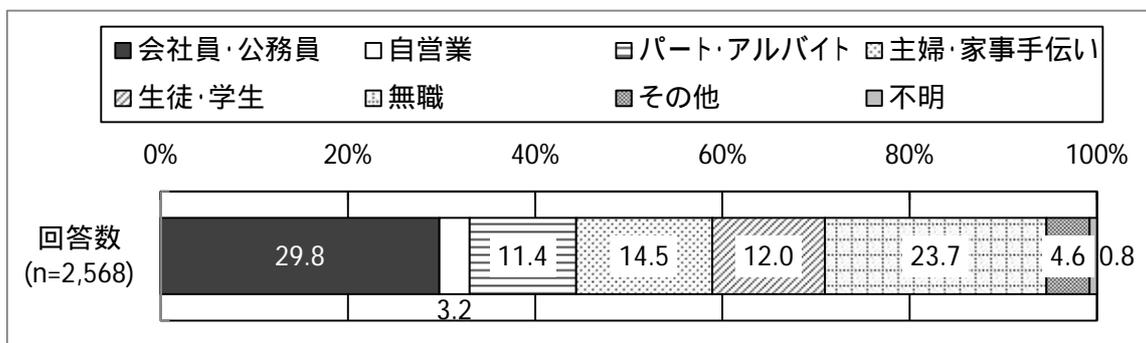


図 回答者の職業

(5) 自家用車の所有・利用（年齢階層別）

- ・自家用車の所有・利用については、30～60歳代は6割以上が自家用車を自由に使える状況となっている。（「自分専用」+「家族共用（いつでも使える）」の合計値が60%以上）
- ・70～80歳代では、「自分が使える自動車はなく、送迎もしてもらえない」が15%を超えている。（70歳代：16.7%、80歳代：25.2%）
- ・20歳代以下は、「自分が使える自動車はないが、ときどき送迎してもらえる」が最も多くなっている。

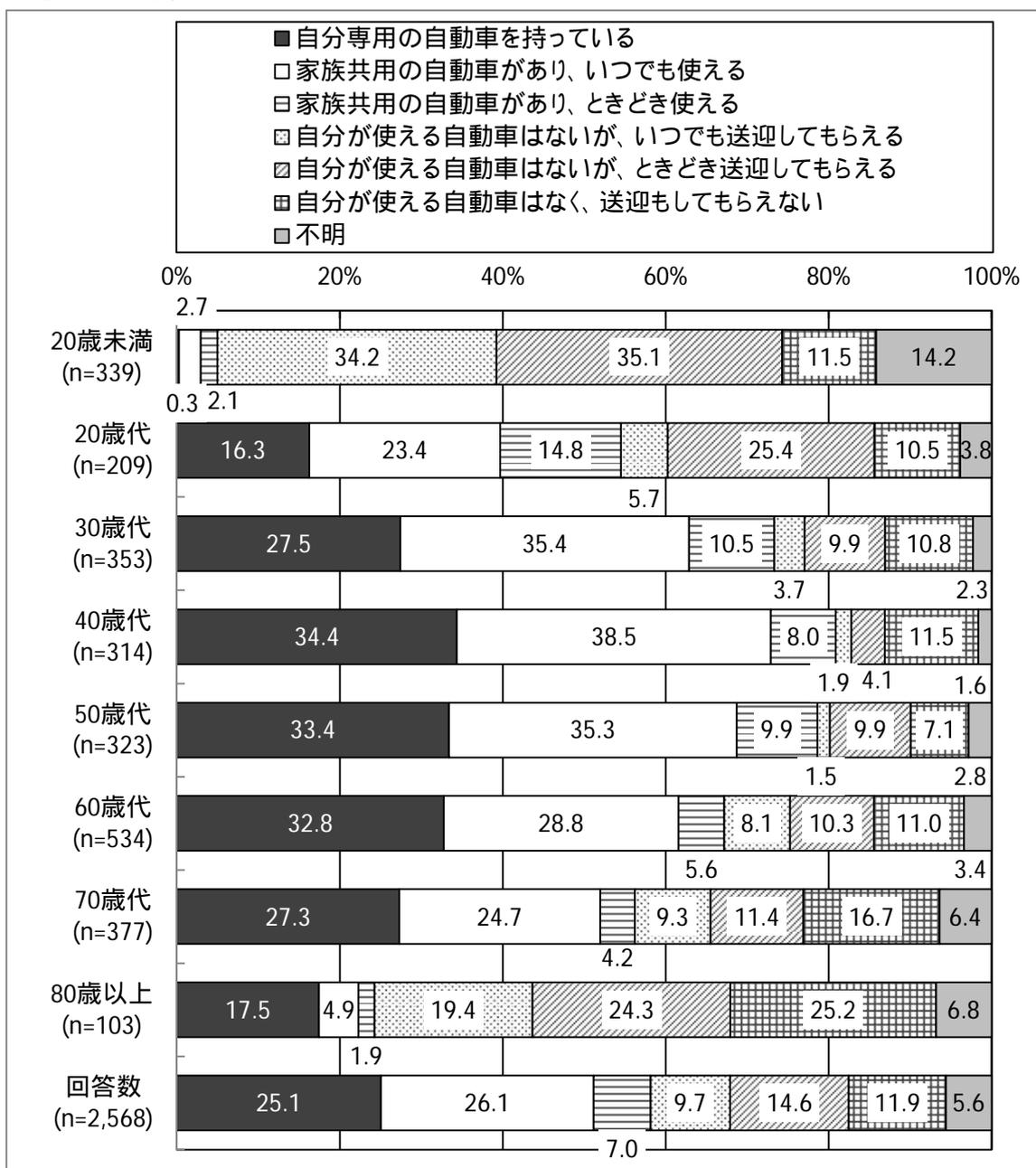


図 年齢階層別自家用車の所有・利用状況

(6) 普段の外出目的

・普段の外出における目的は、「通勤・通学」が43.5%と最も多く、次いで「買物・食事」の28.2%、「その他私用」の12.7%となっている。

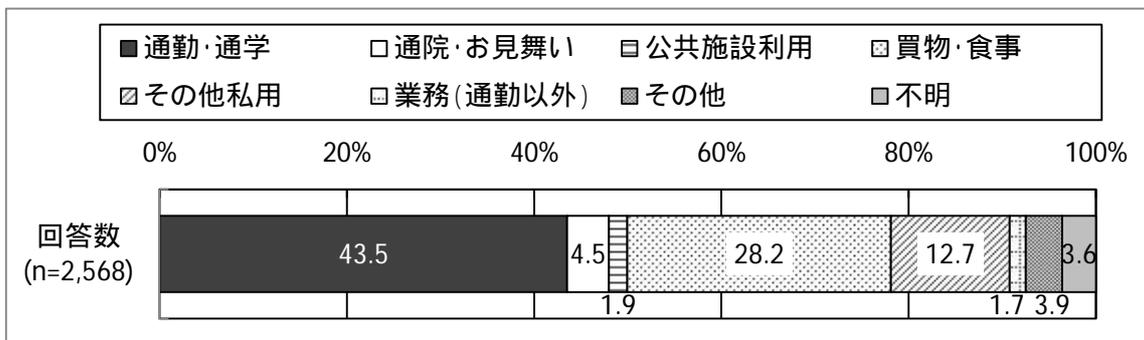


図 普段の外出目的

(7) 普段の外出頻度 (外出目的別)

・外出目的別の外出頻度は、「通勤・通学」「業務(通勤以外)」は、「週4日以上」が70%を超えており、「通院・お見舞い」は「月に数回程度」、それ以外は「週2~3日」が多くなっている。

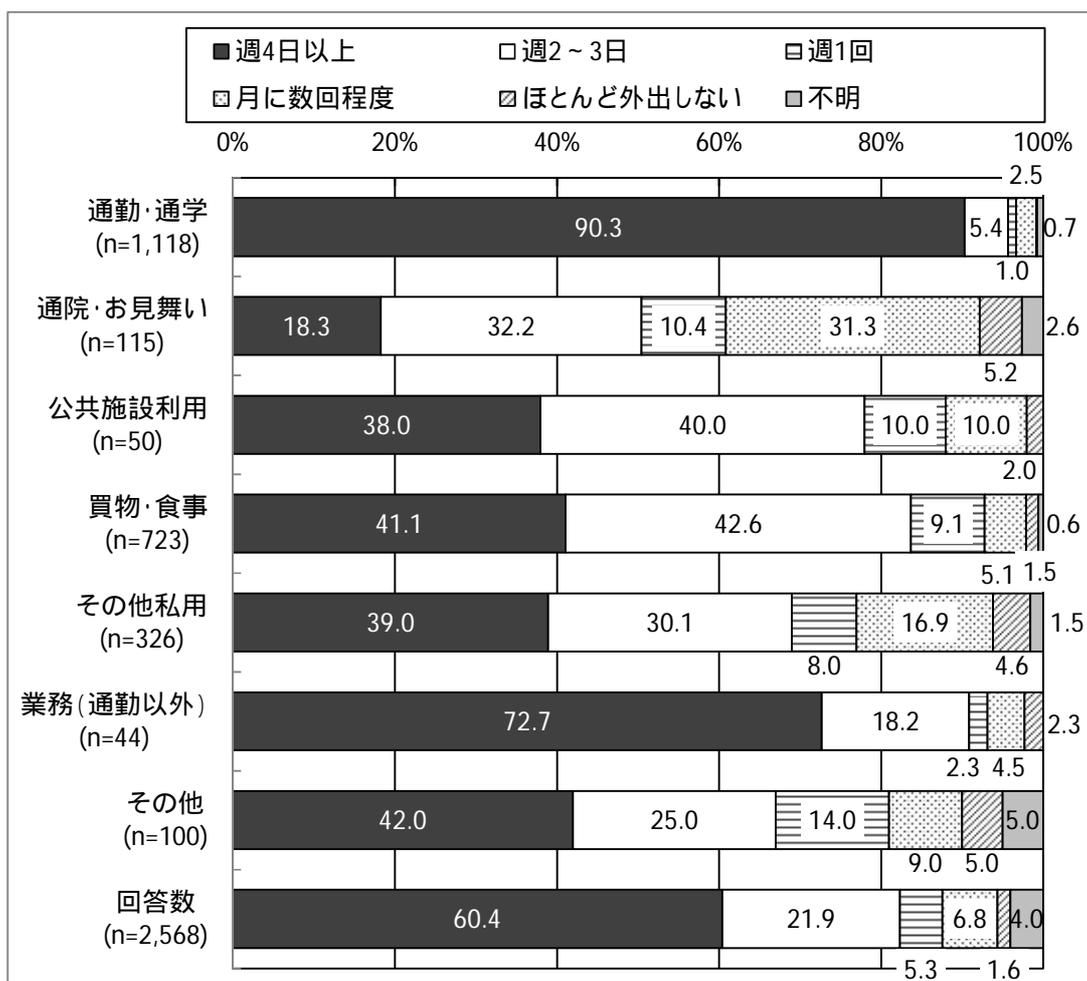


図 外出目的別外出頻度

( 8 ) 普段の外出での主な交通手段

外出目的別交通手段

- ・ 外出の際の主な交通手段は、「自動車(自分で運転)」が28.0%と最も多く、次いで「自転車」の27.8%となっている。外出目的別では、「通勤・通学」「公共施設利用」「業務(通勤以外)」は、「自動車(自分で運転)」が最も多くなっているが、「通院・お見舞い」は「自動車(家族等が送迎)」、「買物・食事」「その他」は「自転車」が最も多くなっている。

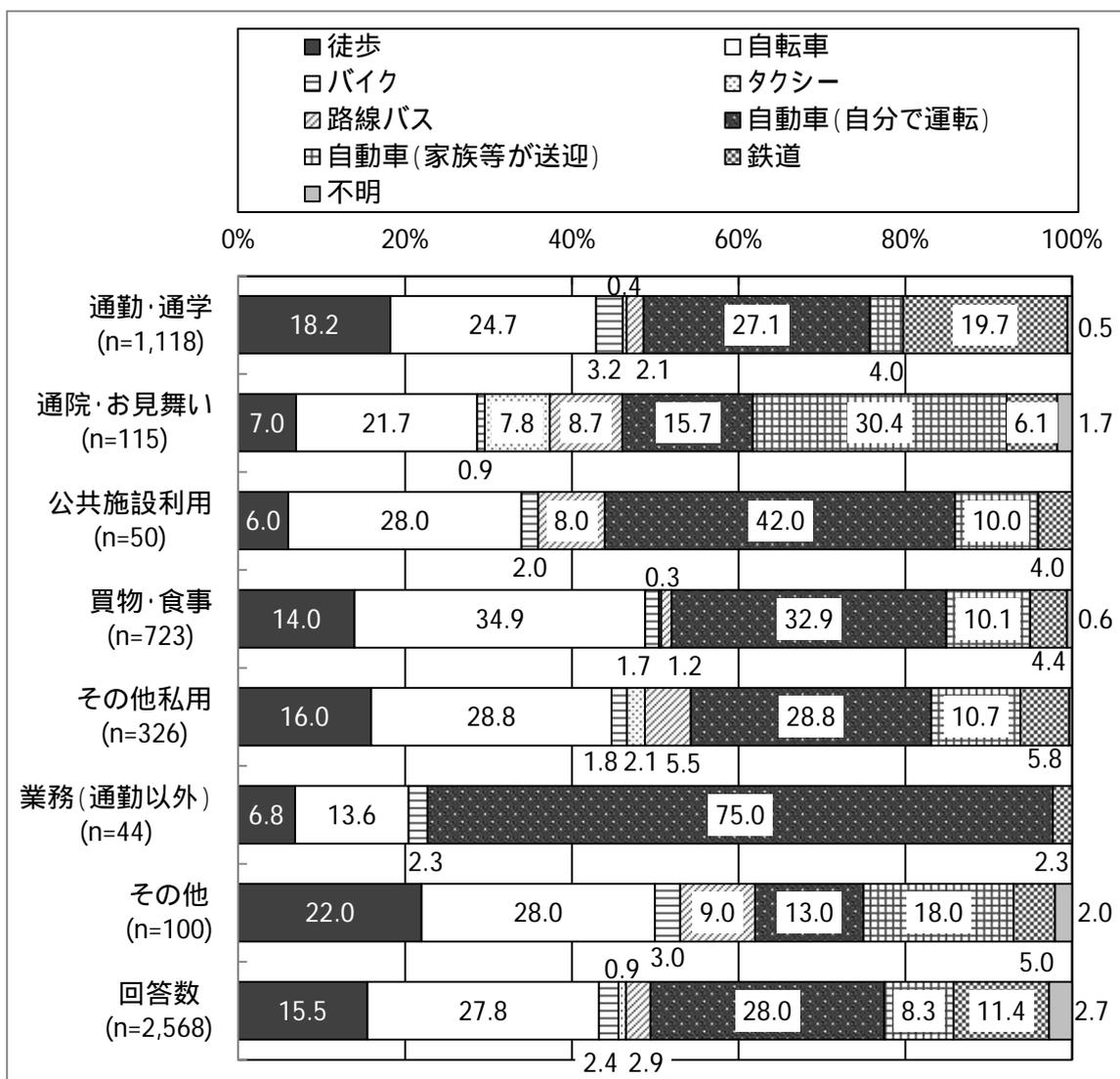


図 外出目的別交通手段

### 年齢階層別交通手段

- ・年齢階層別の主な交通手段は、30～70歳代は「自転車」「自動車（自分で運転）」が多く、20歳未満は、「徒歩」「自転車」、20歳代は「自転車」「鉄道」、80歳以上は、「自転車」「自動車（家族等が送迎）」が多くなっている。

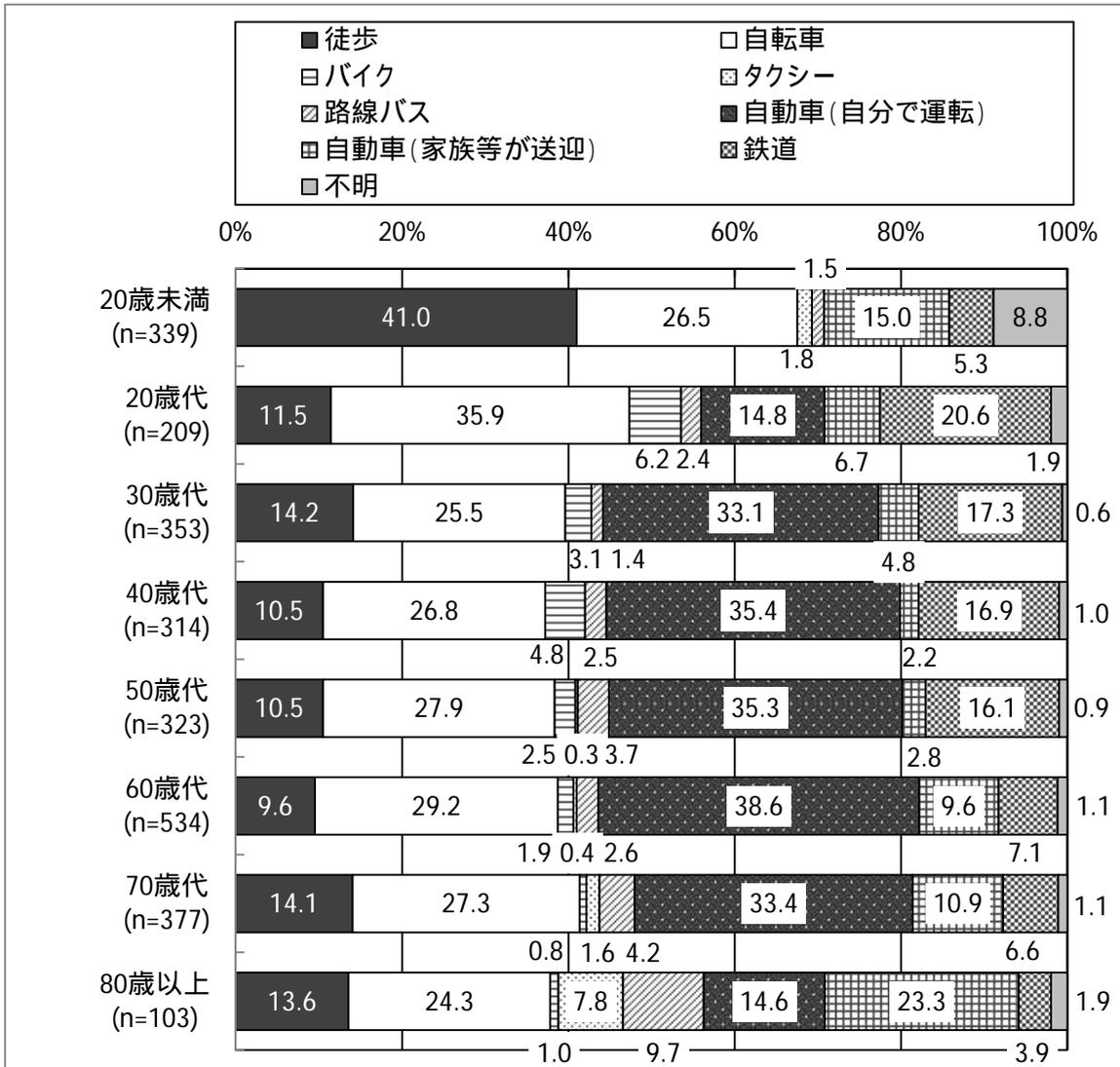


図 年齢階層別交通手段

### 1-3 淵野辺駅・矢部駅の利用状況

#### (1) 駅利用者の個人属性

##### 駅利用者の年齢階層構成比

- ・駅利用者（1,571人）の年齢階層構成比は、「60歳代」が24.6%と最も多く、次いで「70歳代」の17.5%となっている。

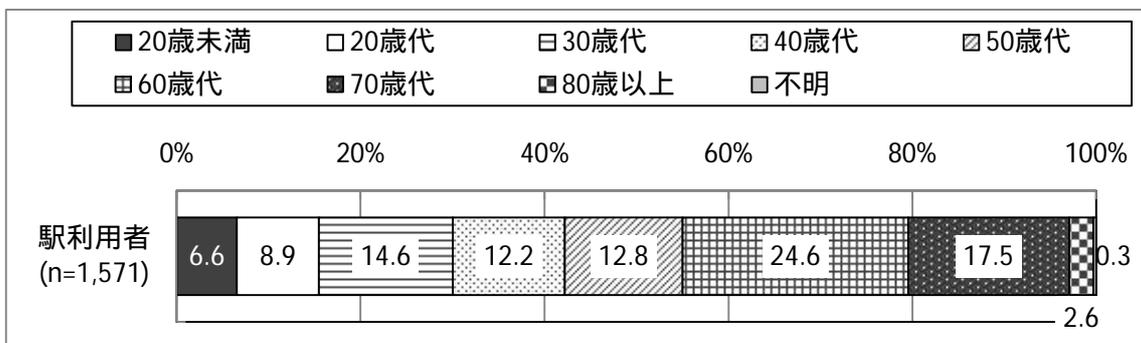


図 駅利用者の年齢階層

##### 駅利用者の職業構成比

- ・駅利用者の職業構成比は、「会社員・公務員」が34.4%と最も多く、次いで「無職」の24.4%となっている。

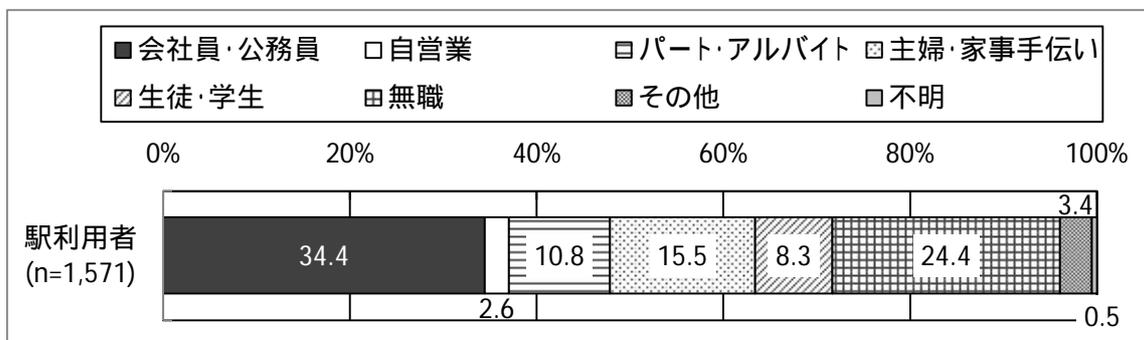


図 駅利用者の職業

駅利用者の自家用車の所有・利用

- ・ 駅利用者と非利用者の自家用車の所有・利用を比較すると、駅利用者は「自分が使える自動車はなく、送迎してもらえない」が非利用者より多くなっている。

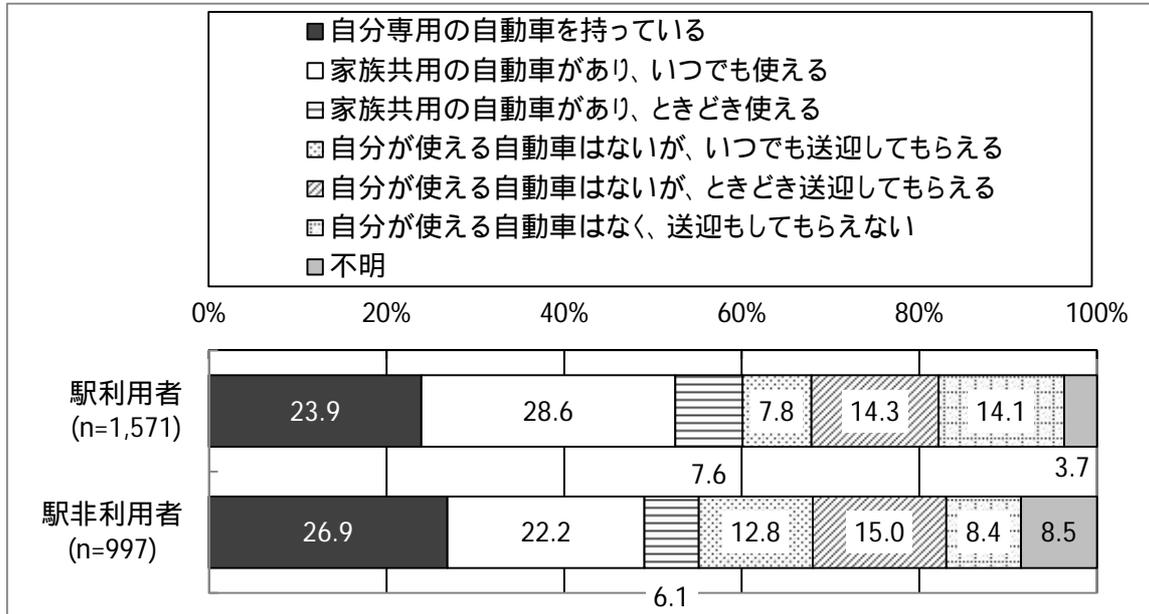


図 駅利用者の自家用車の所有・利用状況

(2) 駅利用者の駅利用頻度

- ・ 駅利用者の駅利用頻度は、「月に数回程度」が42.3%と最も多く、次いで「週4日以上」の35.2%となっている。

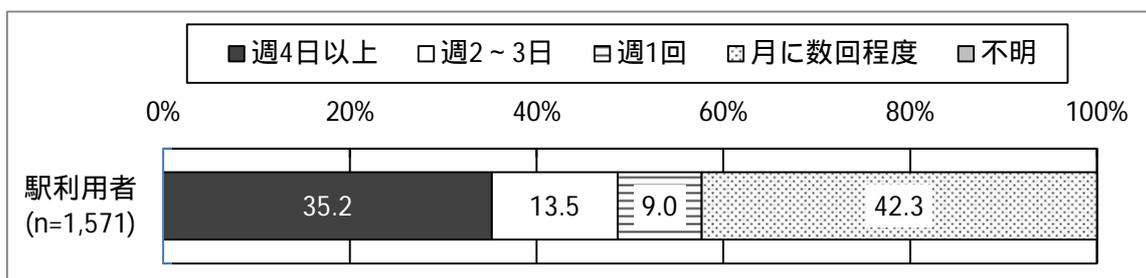


図 駅利用頻度

(3) 駅利用者の駅までの交通手段 (利用頻度別)

- ・ 駅までの交通手段は、「自転車」が40.6%と最も多く、次いで「徒歩」の33.7%となっている。
- ・ 利用頻度別では、「週1回」「月に数回程度」の人は、「自動車(家族等が送迎)」が若干多くなっている。

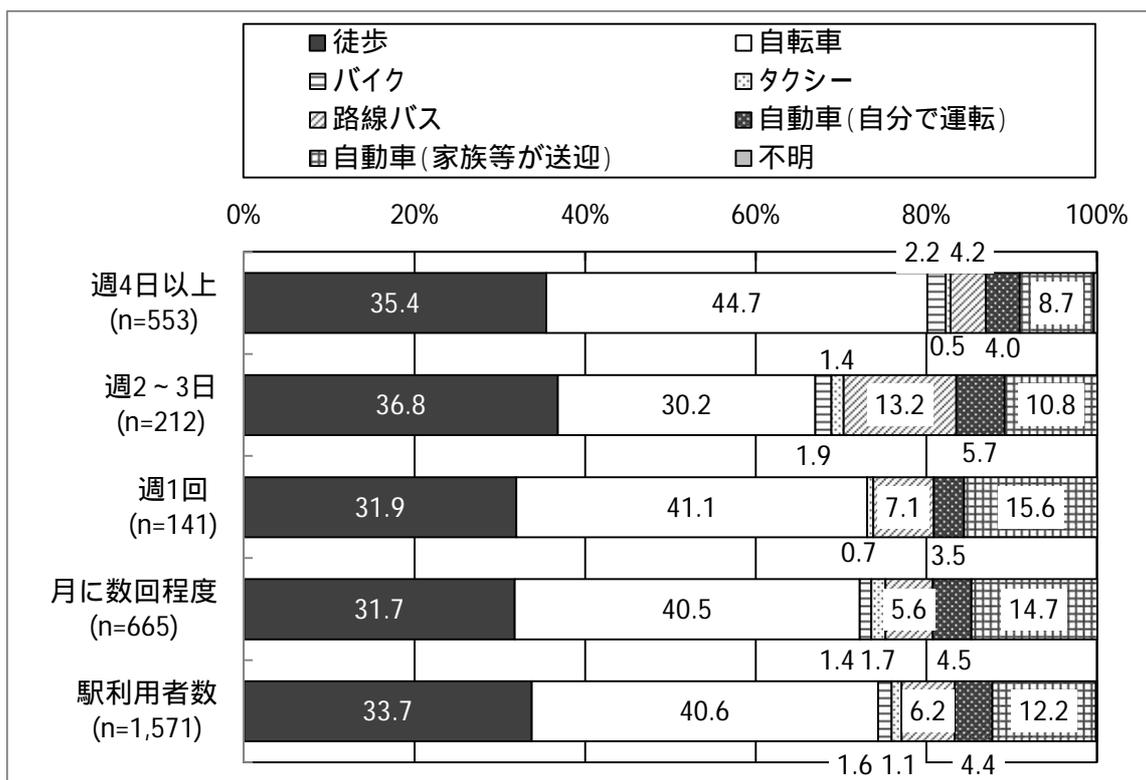


図 利用頻度別駅までの交通手段

## 1-4 大野北地区コミュニティバスについて

### (1) コミュニティバス利用意向者の有無

- ・大野北地区コミュニティバスを利用できそうな人がいるかという設問では、「誰もいない」が43.2%、「誰がいる」が53.2%と、半数以上の世帯で利用できそうな人がいるとなっている。

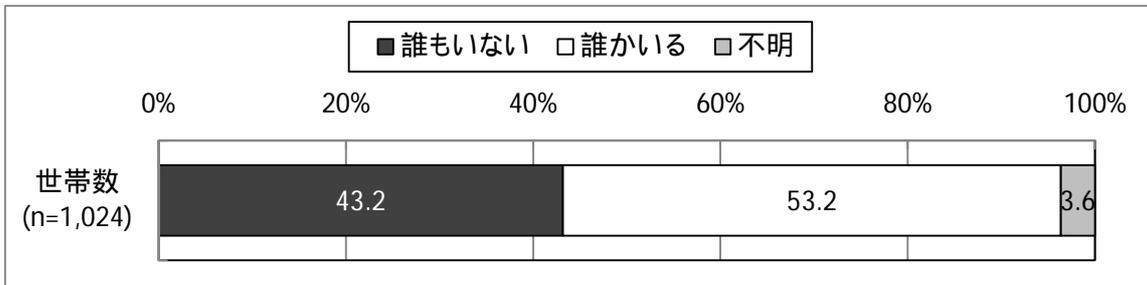


図 コミュニティバスを利用意向の有無

### (2) コミュニティバス利用意向者の個人属性

#### コミュニティバス利用意向者の年齢階層構成比

- ・コミュニティバスを利用できそうな人(723人)の年齢階層構成比は、「60歳代」の25.0%が最も多く、次いで「70歳代」の21.2%となっている。

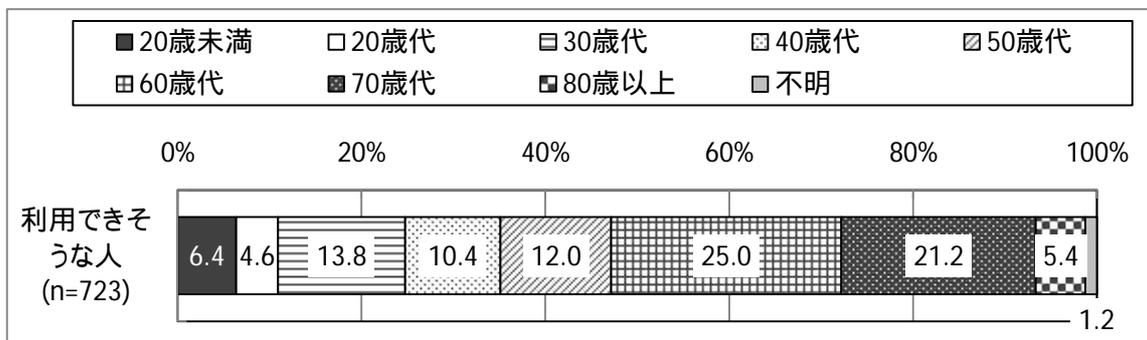


図 コミュニティバスを利用意向者の属性

コミュニティバス利用意向者の職業構成比

- ・コミュニティバスを利用できそうな人の職業構成比は、「無職」の30.6%が最も多く、次いで「主婦・家事手伝い」の24.2%となっている。

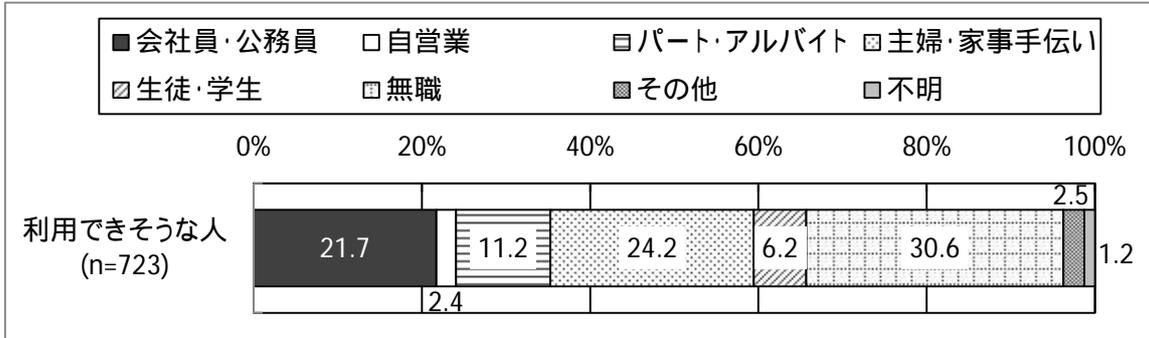


図 コミュニティバス利用意向者の職業

(3) コミュニティバスの利用目的

- ・コミュニティバスを利用できそうな人が作成した行動プランにおいて、コミュニティバスを利用する際の目的は、「買物・食事」が24.5%と最も多く、次いで「通院・お見舞い」の23.7%となっている。
- ・「その他」では、「電車を利用する」25票、「雨天(雪)の時利用する」10票、「遠方に出かける時利用する」2票というものであった。

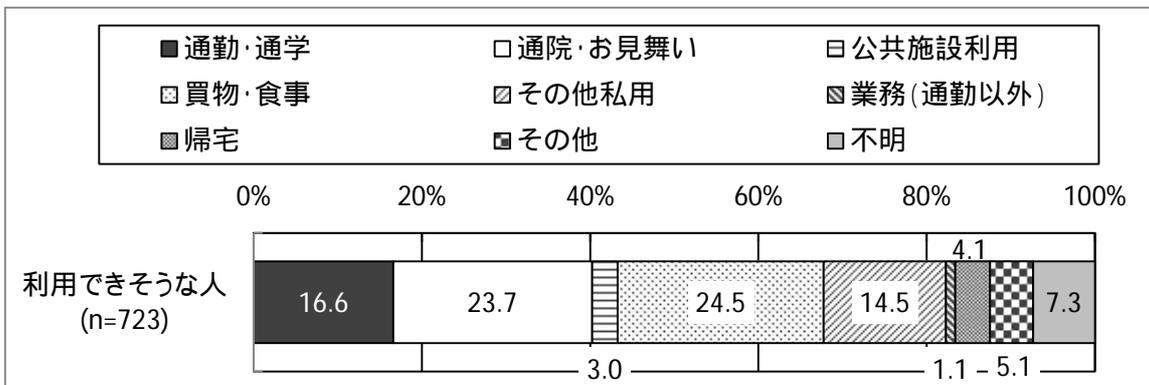


図 コミュニティバスの利用目的

(4) 自宅発の乗降バス停(行動プランより)

- ・行動プランで記入した自宅発の乗降バス停を整理すると、乗車は、「椿稲荷神社入口」が112票で最も多く、次いで「上矢部五丁目」の73票となっている。
- ・降車は、「淵野辺駅北口」の237票が最も多く、次いで「矢部駅・相模野病院前」の182票となっている。
- ・降車で「矢部駅・相模野病院前」と回答した人の利用目的は、「買物・食事」の40.1%が最も多く、次いで「通勤・通学」の29.7%、「その他私用」の14.3%となっており、「通院・お見舞い」は8.2%となっている。

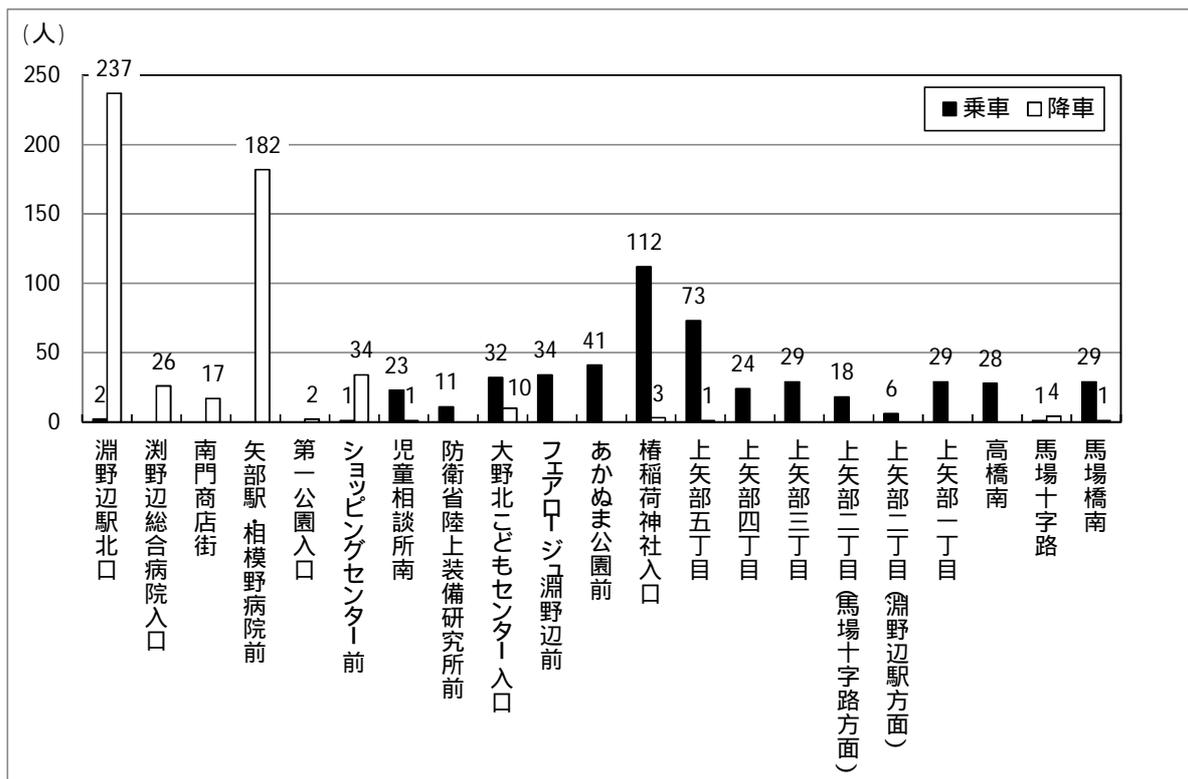


図 行動プランでの乗降バス停

(5) コミュニティバスの利用意向

- ・コミュニティバスを利用できそうな人が作成した行動プランにおいて、実際に行動をやってみようと思うかについては、「少しそう思う」が35.4%と最も多く、次いで「そう思う」の32.9%となっている。

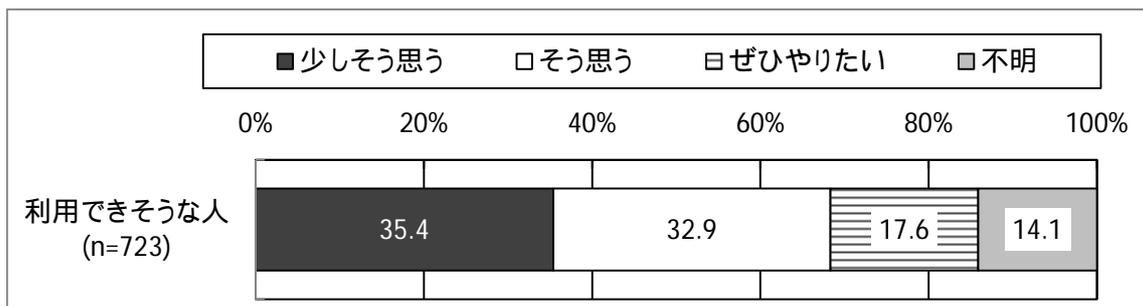


図 コミュニティバスの利用意向

(6) コミュニティバスを利用できない・利用しない理由

- ・コミュニティバスを利用できそうな人がいるかという設問で「誰もいない」と回答した世帯(442世帯)の、利用できない・利用しない理由は、「他の交通手段の方が便利だから」の31.4%が最も多く、次いで「その他」の14.9%、「目的地に到着するのに時間がかかるから」の13.8%となっている。
- ・「その他」の意見では、「徒歩・自転車でもいから」42票、「駅まで近いから」18票、「運行ルートに目的地がないから」13票、「駅を利用しないから」4票、「バスを利用できないから(高齢、子ども、障がい等)」3票が複数票となっている。
- ・また、「現在は必要ないが、将来的に利用する」、「天候が悪い時に利用する」といった意見もみられた。

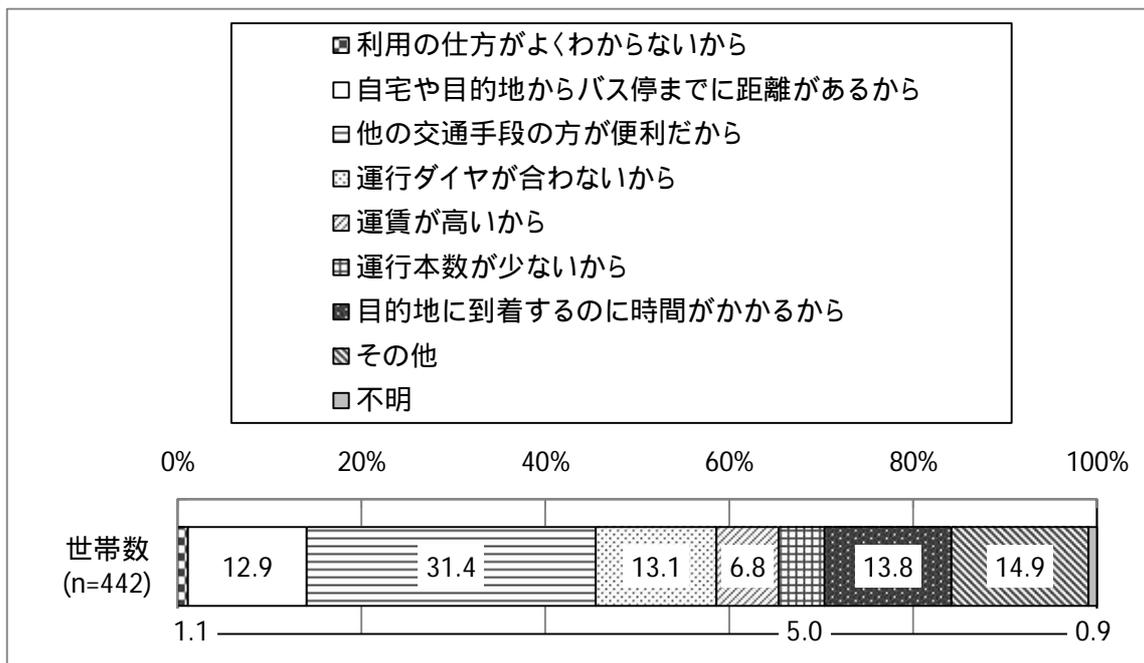


図 コミュニティバスを利用しない理由

## 1-5 動機付け冊子内容の認知度・「クルマ」についての意識

### (1) 動機付け冊子内容の認知度

「交通事故」「環境問題」「健康」の3項目とも、7割以上が「知っていた」または「少し知っていた」と回答している。「交通事故」に関しては約8割が「知っていた」または「少し知っていた」と回答している。

#### クルマ・自転車利用と「交通事故」について

- ・クルマ・自転車利用と「交通事故」については、「知っていた」が37.2%、「少し知っていた」が40.2%、「知らなかった」が20.8%と、77.4%が知っている（「知っていた」+「少し知っていた」）と回答している。

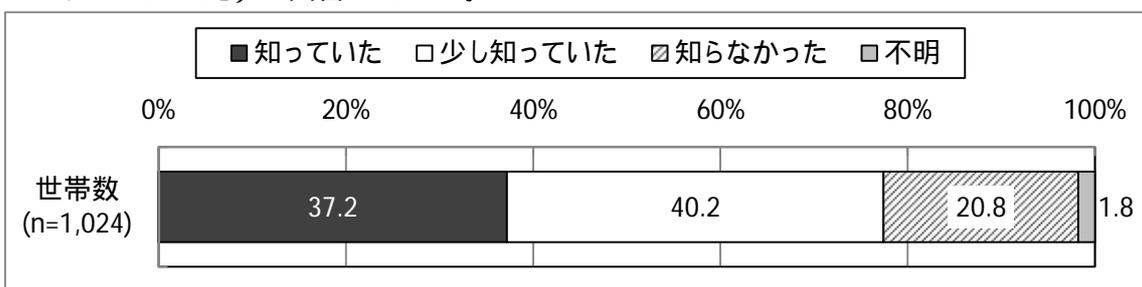


図 クルマ・自転車利用と交通事故の認知状況

#### クルマ利用と「環境問題」について

- ・クルマ利用と「環境問題」については、「知っていた」が26.0%、「少し知っていた」が45.6%、「知らなかった」が26.8%と、71.6%が知っている（「知っていた」+「少し知っていた」）と回答している。

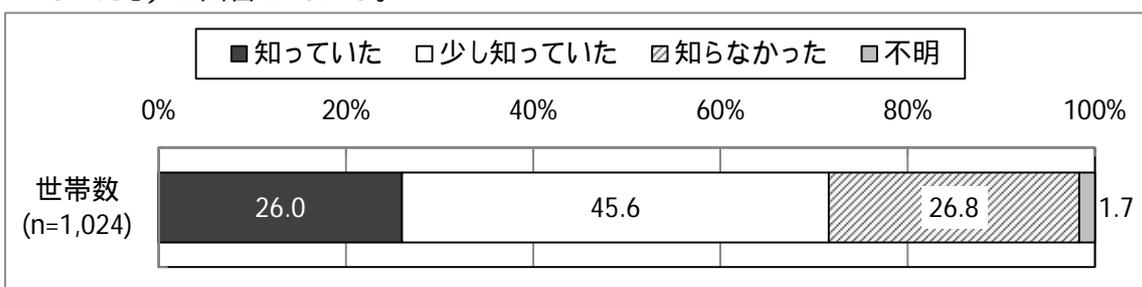


図 クルマ利用と環境問題の認知状況

### クルマ利用と「健康」について

- ・クルマ利用と「健康」については、「知っていた」が29.8%、「少し知っていた」が43.5%、「知らなかった」が25.2%と、73.2%が知っている（「知っていた」+「少し知っていた」）と回答している。

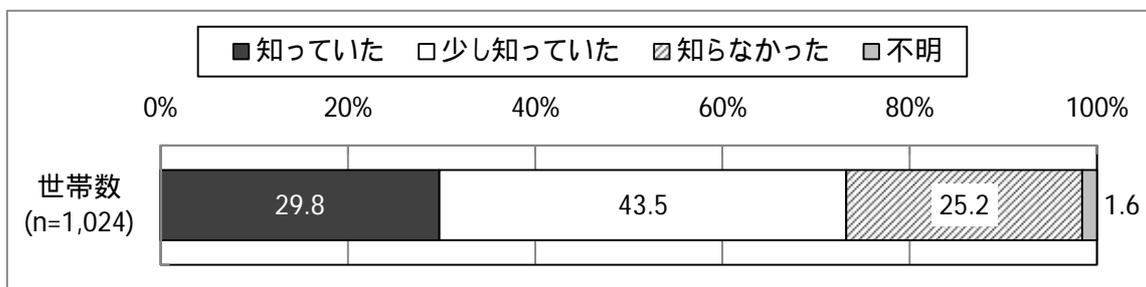


図 クルマ利用と健康の認知状況

(2)「クルマ」についての意識

クルマ利用が「環境」「健康」によくないと思うかについては、9割弱が「環境」「健康」によくない(「そう思う」+「やや、そう思う」と回答している。

クルマ利用を、できるだけ控えた方がよいと思うか、できるだけ控えようと思うかについては、控えた方がよいと思う(「そう思う」+「やや、そう思う」)は約7割、できるだけ控えようと思う(「そう思う」+「やや、そう思う」)は約6.5割と、控えた方がよいと思っているが、実際に控えるとなると0.5割ほど意識が低くなっている。

クルマばかりを使うのは、あまり「環境」によくないと思うか

・クルマばかりを使うのは、あまり「環境」によくないかについては、「そう思う」が56.9%、「やや、そう思う」が29.5%と、86.4%が「環境」によくない(「そう思う」+「やや、そう思う」)と回答している。

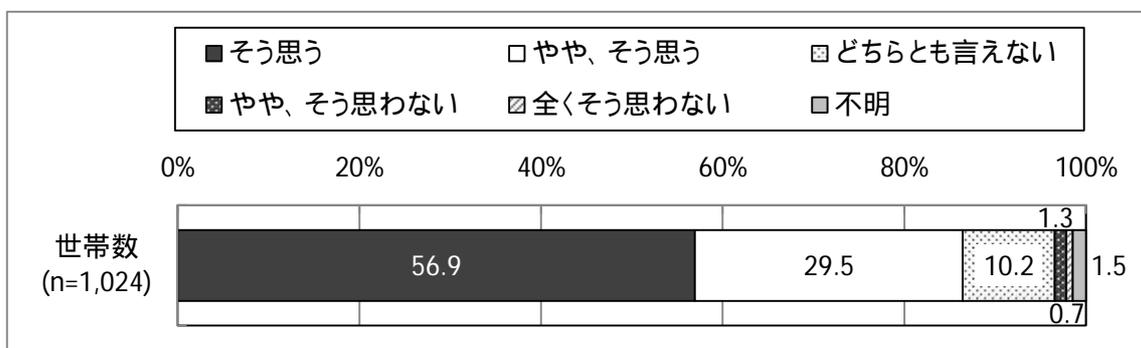


図 クルマと環境に対する意識

クルマばかりを使うのは、あまり「健康」によくないと思うか

・クルマばかりを使うのは、あまり「健康」によくないかについては、「そう思う」が60.4%、「やや、そう思う」が27.1%と、87.5%が「健康」によくない(「そう思う」+「やや、そう思う」)と回答している。

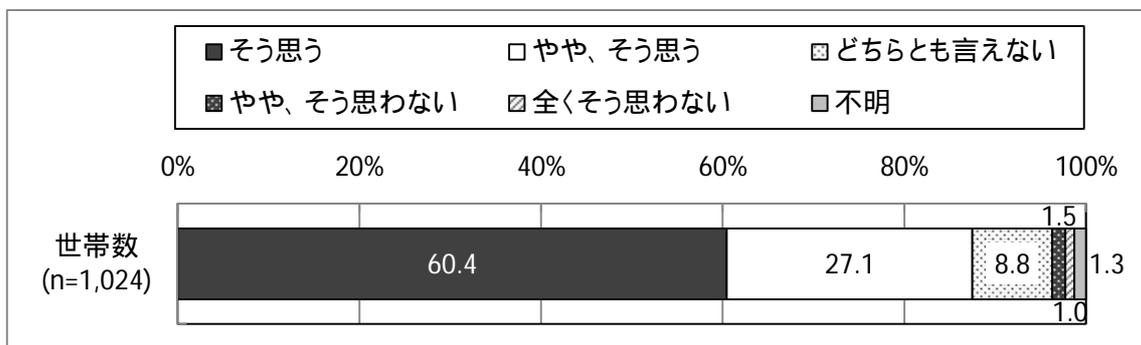


図 クルマと健康に対する意識

クルマ利用は、できるだけ控えた方がよいと思うか

- ・クルマ利用は、できるだけ控えた方がよいかについては、「そう思う」が39.1%、「やや、そう思う」が31.3%と、70.4%が、できるだけ控えた方がよい(「そう思う」+「やや、そう思う」)と回答している。

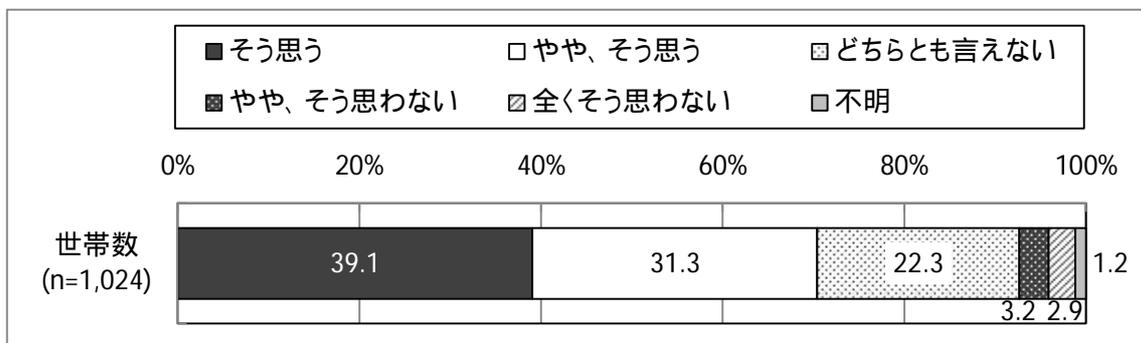


図 クルマ利用に対する意識

クルマ利用を、できるだけ控えようと思うか

- ・クルマ利用を、できるだけ控えようと思うかについては、「そう思う」が33.2%、「やや、そう思う」が31.6%と、64.8%が、できるだけ控える(「そう思う」+「やや、そう思う」)と回答している。

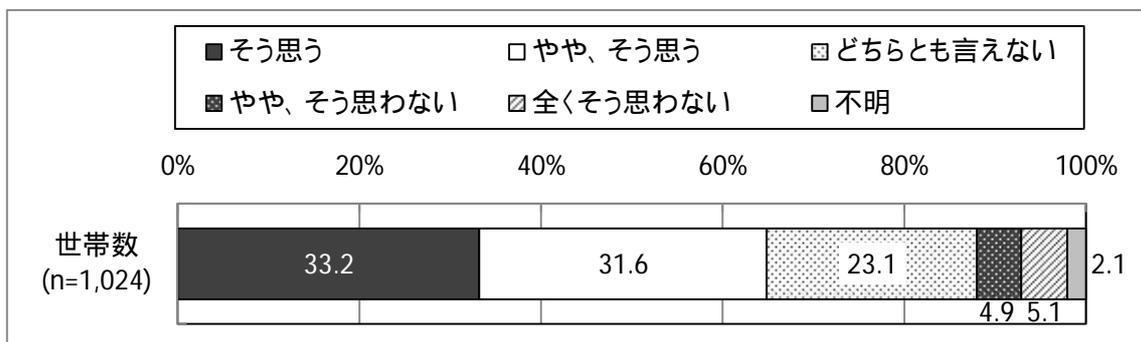


図 クルマ利用に対する意向

## 1-6 よりよい地域の交通をめざして（自由意見）

### （1）意見の概要

自由記入欄への意見は、回答世帯の半数近い483世帯からの回答をいただいた。

意見の内容は、コミュニティバスに関する意見が339件と最も多いが、「道路」や「自転車」に関する意見も多くみられた。

表 自由意見の概要

| 意見内容         |          | 件数   |
|--------------|----------|------|
| コミュニティバスについて | ルートについて  | 65件  |
|              | 運賃について   | 57件  |
|              | 運行本数について | 88件  |
|              | その他      | 129件 |
| 路線バスについて     |          | 20件  |
| 自転車について      |          | 52件  |
| 道路について       |          | 64件  |
| エコについて       |          | 24件  |
| その他          |          | 55件  |

注) 1世帯で複数意見が記載されているため、合計は483件に一致しない。

## 2. お試し乗車券の利用状況

### 2-1 利用状況

#### (1) 日別利用状況

お試し乗車券は、552枚、785人の利用があり、日別では最終日の2月28日が85枚、105人と利用が最も多かった。

1カ月間の傾向をみると、運行開始当初の2月上旬は20枚/日を超える利用が見られた。なお、2月中旬に利用がない日が見られるが、これは大雪によりコミュニティバスが運休したためである。無料バスチケットの有効期限が2月末までのため、運行開始後は利用が増えている。

また、お試し乗車券1枚当たりの利用者数は、期間中を通じて1.25~2.00人/枚となっている。

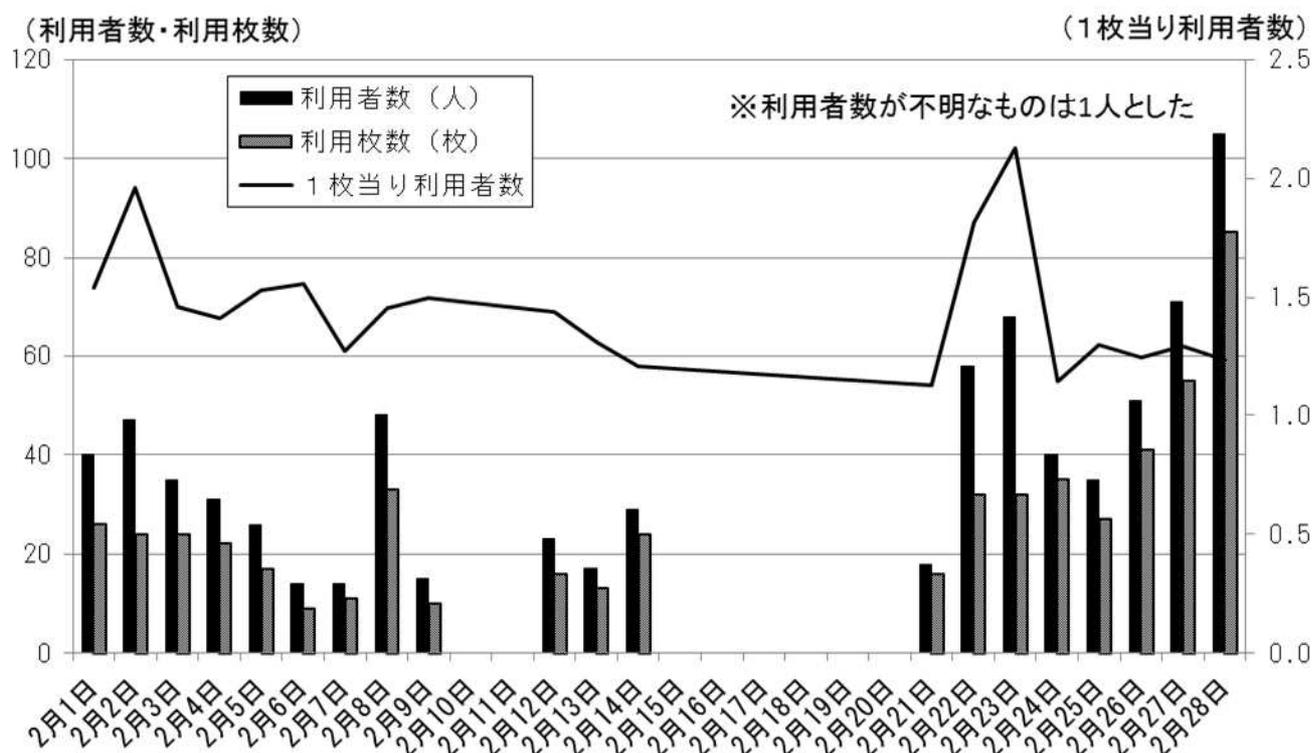


図 日別利用枚数・人数の推移

#### 【コミュニティバスの運行状況】

- ・2/9 11:30以降の便から、2/11まで運休
- ・2/12 始発便から運行再開
- ・2/14 17:30 淵野辺駅発から、2/20まで運休
- ・2/21 始発便から一部ルートを迂回して運行再開  
(「大野北こどもセンター入口～淵野辺総合病院入口」間は不通)
- ・2/21 17:30 発便から運行再開

(2) 地区別利用状況

地区別のお試し乗車券の利用状況は、淵野辺2丁目が126枚と最も多く、次いで淵野辺本町1丁目の100枚、上矢部1丁目の88枚と、配布枚数に比例している。

配布した枚数に対する利用率は、上矢部5丁目の17.0%が最も高く、次いで上矢部1丁目の16.4%、淵野辺本町1丁目の12.7%と、比較的駅から離れている地域で高くなっている。

なお、今回のMM配布エリアではないが、コミバスの沿線である町田市馬場地区でもチラシ及び無料バスチケットを配布した。

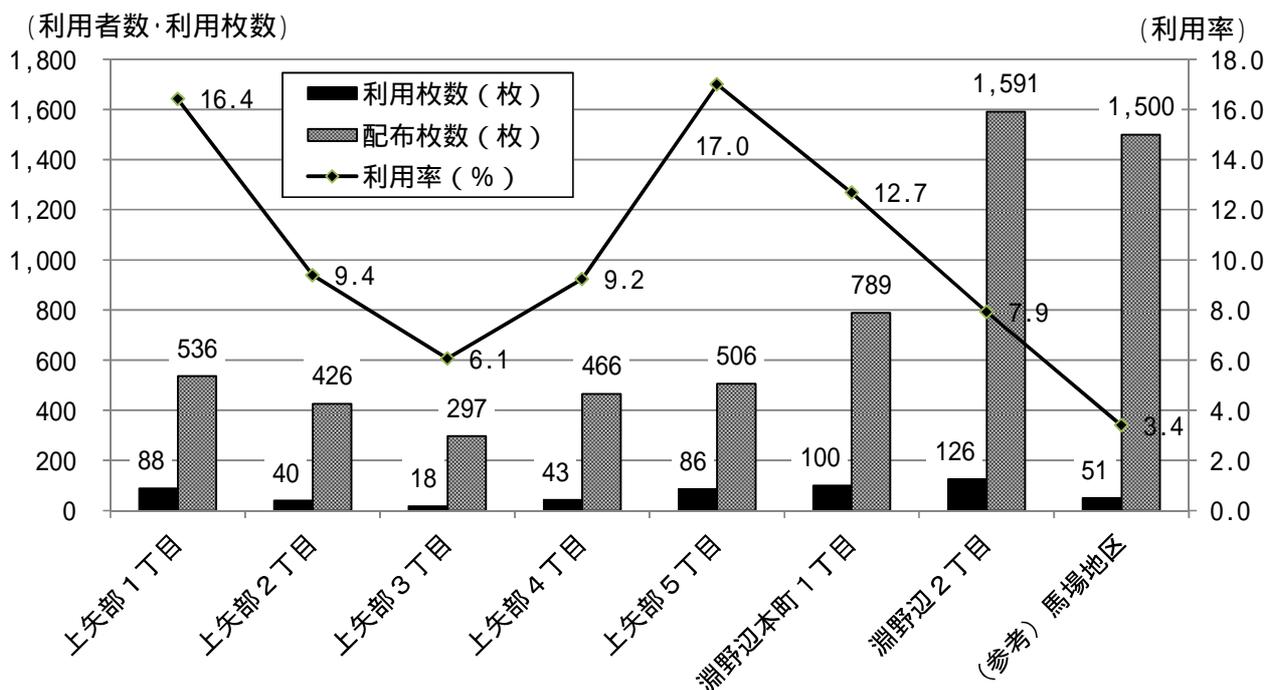


図 地区別利用枚数・利用率

## 2-2 利用特性

### (1) 利用目的

お試し乗車券によるコミュニティバスの利用目的は、私事目的が73.0%と最も多く、次いでその他目的の6.2%、通勤目的の5.9%となっており、私事目的での利用が中心となっている。

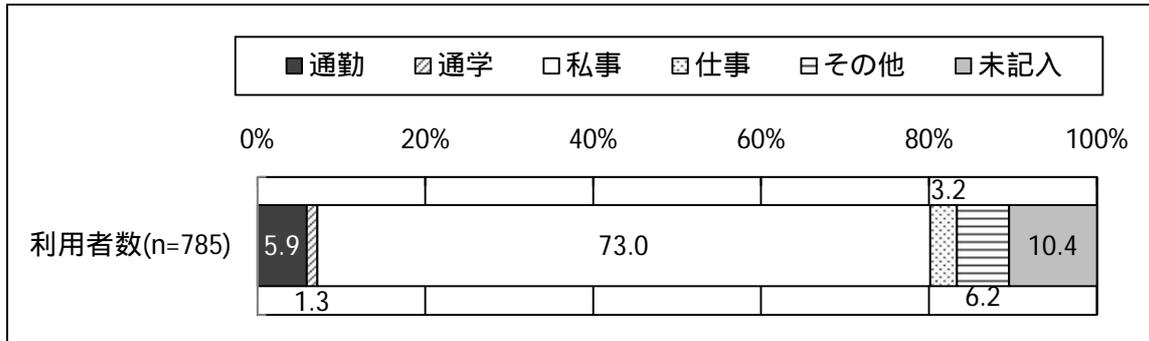


図 利用目的構成比

### (2) 利用曜日

お試し乗車券によるコミュニティバスの利用曜日は、土曜日が平均48.7人と最も多く、次いで日曜日の43.3人と休日での利用が多くなっている。

最も利用が少ないのは、火曜日で33.0人となっている。

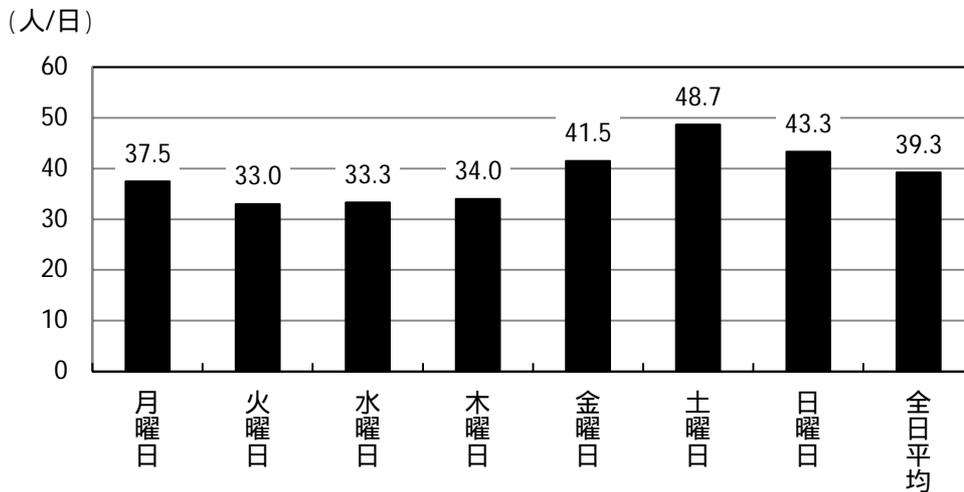


図 曜日別利用者数 (2月平均)

### (3) 利用バス停

お試し乗車券によるコミュニティバスの利用バス停をみると、乗車バス停としては椿稲荷神社入口の121人が最も多く、次いで淵野辺駅北口の114人となっており、それ以外では、鉄道駅から離れた上矢部地区で多くなっている。

また、降車バス停としては、淵野辺駅北口の270人が最も多く、次いで矢部駅・相模野病院前の148人と鉄道駅の最寄りバス停で多くなっており、鉄道の端末交通手段として利用されているものと考えられる。

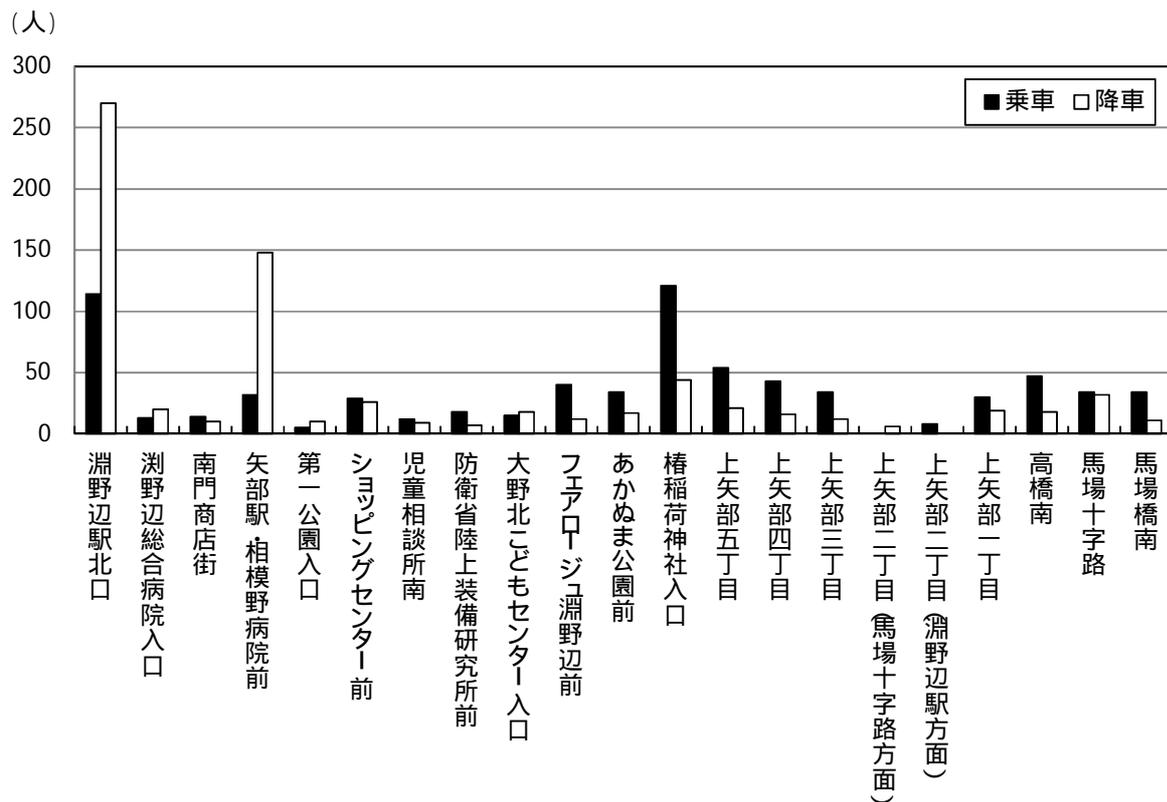


図 バス停別乗降者数